

三重県農業研究所史

(昭和 31 年以降)

令和 5 年 3 月 3 1 日

三重県農業研究所

農業研究所史（昭和 31 年以降）の編纂にあたって

三重県農業研究所は、明治 10 年（1877 年）に開設された栽培試験場に始まり、令和 5 年（2023 年）に 146 年を迎えます。開設から昭和 30 年までのおよそ 80 年間の歴史は、諸先輩方のご尽力により平成 6 年に発刊された「三重県農業試験場史」において詳説されています。本研究所史は、この続編として昭和 31 年から令和 4 年までの 66 年間の経過をまとめたものです。

編纂にあたった昭和 31 年以降の組織体制は、「三重県農業試験場」から、研究、普及、教育を一体化した「三重県農業技術センター」への改編と、県の公設研究機関を統合した「三重県科学技術振興センター」への編入という大きな節目を経て、現体制の「農業研究所」に至ります。

この間、試験研究の面では時代の要請に応え、数多くの技術開発や新品種の育成を行い、行政、普及、関係団体を通じて本県農業の維持・発展に貢献してきました。また、水稻の原種供給や現場で特定が困難な病虫害の診断など、農業生産の下支えとなる取組を継続し、県の農業試験研究機関としての役割を果たしてきました。

近年においては、地球温暖化による気象変動や、加速する農業従事者の高齢化と減少、食料安全保障問題のクローズアップなど、農業を取り巻く情勢が大きく変化しています。このような中、本所は昭和 45 年に現在の松阪市に移転してから 52 年が経過し、施設や圃場は更新の時期を迎えようとしています。今後、将来に向けた研究所のあり方を議論していくためには、これまでの歩みを記録にとどめ、振り返ることが必要と考え、本研究所史を編纂することとしました。

本研究所史には、昭和 31 年以降現在に至る組織、人事、予算の変遷、研究成果などを可能な限り収集、整理して収録しました。この小冊子が関係各位にご一読をいただき、農業研究所の役割に対する理解と認識を一層深められ、今後の発展のためにご協力、ご支援を賜る一助となれば望外の喜びです。

最後に、編纂にあたりご協力いただいた諸先輩と職員各位、ならびに編集委員の方々に深甚なる感謝の意を表します。

令和 5 年 3 月 3 1 日

農業研究所所長 糀 谷 齊

